

兵庫県 SLA にお見舞いと激励活動 各県 SLA 事務局長会議で緊急提案

兵庫県 SLA から被災地のなまの報告

兵庫県南部地震の被災者に全国各地から救援物資や救援活動の手が差し伸べられているが、さる2月2日、東京・神楽坂エミールで開かれた各県 SLA 事務局長会議の席上、被災地兵庫県から駆けつけた田中勝事務局長が被災地の様子をなまなましく報告した。

田中事務局長は、子どもたちの様子について、「何人も担任教師の名前を忘れたり、心に深い傷をおっている」として、子どもたちの心の問題が大きな課題になっていると訴えた。

この報告を受けて、全国 SLA 笠原事務局長が兵庫県 SLA に対するお見舞いと激励の緊急提案をし、出席者全員によって承認された。

お見舞いと激励の行動開始

全国 SLA は2月18日、各県 SLA に対し「阪神大震災に伴う兵庫県 SLA に対するお見舞いについて」の文書を発送した。

具体的な活動内容は次のとおり。

- ①全国 SLA 及び各県 SLA の組織を通じて募金を募り（3月末日締切り。今回は児童生徒への呼びかけはしない。）、兵庫県 SLA へのお見舞いとする。
- ②日本児童図書出版協会、日本出版取次協会、日本書店商業組合連合会から要請を受けている被災地の学校、幼稚園等に本を寄贈する計画に協力する。
- ③各県 SLA を通じて被災した子どもたちへ励ましの手紙を募集し被災地の子どもたちに送るなど「こころの問題」に対する取組みを検討する。

現地からの訴えと実態調査の取組み

これに呼応して兵庫県 SLA では、2月15日、田中勝事務局長名で県下各学校長・学校図書館担当者宛に「児童・生徒の心の痛みを癒すために『読み聞かせ』の奨めと調査のお願い」の文書を郵送した。

この文書は、学校図書館担当者は今、本を通して子どもたちの心の傷を癒す活動が必要だとし、心温まる本、人を思いやる気持ちがわく本、仲間と生活する楽しみを感じさせる本、再生に向けて立ち上がる本、など読み聞かせてほしいと切々と訴えている。また、調査については、学校図書館の使用は可能か、蔵書の被害状況はどうか、図書館活動はできるか、などの項目が挙げられている。

全国 SLA では、この兵庫県 SLA の調査結果などを参考にしながら、兵庫県及び近接の府県 SLA、支援活動を求めている関係団体とも連携をとりつつ「被災地の学校や幼稚園に本を送る運動」の取組みを展開する方針。各県 SLA に参集する会員各校の理解と暖かい支援・協力を求めている。



鈴木全国SLA会長(左)と田中兵庫県SLA事務局長(右)

全小・中学校図書館に専任の教員を配置 東京都が平成8年度から「5カ年計画」で

東京都教育委員会は、このほど平成8年度から5カ年計画で東京都内の全公立小・中学校の学校図書館に専任の教員を配置する計画を明らかにした。

現在東京都内の公立小・中学校は、区部、市町村部合わせて全体で約2千校。計画によると、新たに学校図書館に専任で配置される教員は、退職教員の中から都が募集し、「嘱託員」として再雇用される教員。募集対象となる教員は、司書教諭の有資格者、または図書館主任や図書館係として学校図書館の経験をもっている教員に限られ、再雇用の年限は5年間となっている。

都教育庁人事部の試算によると、平成8年度から5年間で約4千人程度の退職教員が嘱託員として再雇用される見通し。この中から、学校図書館に専任で勤務する教員を募集し、順次公立各小・中学校に配置していく方針。東京都の嘱託員制度によると、嘱託員の勤務は1日8時間で週当たり4日勤務、1カ月に16日から18日、1年間に192日と勤務日数が定められている。

今回の小・中学校学校図書館への専任教員の配置は、東京都の嘱託員制度を活用して学校図書館の活性化と学校での読書指導の充実を図るのがねらい。司書教諭有資格者や学校図書館の経験のある教員を専任で学校図書館に配置するという試みは全国でも例がなく、東京都教育委員会の試みが学校図書館現場に活気をもたらすかどうか注目される。

東京都教育庁・若林尚夫人事課長の話 都の嘱託員制度の範囲を広げて、平成8年度か

ら5カ年間で都内の全公立小・中学校に学校図書館専任の教員を配置したい。嘱託員の研修については地教委に任せるが、現在の嘱託員制度でも宿泊を伴わない研修は認めている。将来的には、司書教諭が発令できるようにそれとドッキングさせたい。

東京国際ブックフェア'95幕張で開催

世界と日本の出版社、出版関係社が出展した「東京ブックフェア'95」が2月8日から11日までの4日間、千葉の幕張メッセで開かれた（東京ブックフェア実行委員会、日本書籍出版協会、日本出版取次協会ほか主催）。幕張での開催は、昨年に引き続いて2回目。出展したのは日本が383社、外国が352社の併せて735社。

会場内は約100のブースに別れ、世界各国の出版物が多数展示・即売されたほか、造本・装丁コンクール展、洋書バーゲンコーナー、著名人が選んだ私の一冊コーナー、著者サイ



幕張メッセで開かれたブックフェア

平成7年度交付税額は約100億円 3年目を迎えた「新5カ年計画」予算決まる

平成5年度から始まった文部省施策「学校図書館図書整備新5カ年計画」が3年目を迎えた今年度、学校図書館図書費の交付税額は約100億円と決まった。交付税措置は、第1年目の平成5年度が約80億円、第2年目の平成6年度が約90億円付けられており、今年度はさらにアップされたこととなった。緊縮財政の折、地方一般財源とはいえ、予算大幅増額は文部省をはじめ政府関係機関の学校図書館充実に対する大きな期待感の現れといえよう。

今年度新たに措置された図書費は、小学校1学級あたり約1.3万円（前年度約1.1万円。18.2%増）、中学校1学級当たり3.2万円（前年度約2.8万円。14.3%増）。これによって、例えば、18学級の小学校では23.4万円、15学級の中学校では48万円の図書費が、従来の図書費に「上乘せられて」措置されたことになる。

被災地の子どもたちに本を贈る運動

「兵庫県南部地震で被災した子どもたちに本を贈ろう」と、全国SLAなど関係団体が集まって、4月下旬に兵庫県の学校や幼稚園に本を届けることになった。これは、日本児童図書出版協会の呼びかけに応じて日本取次出版協会、日本書店商業組合連合会、全国SLA、大阪国際児童文学館が加わって「被災地の子どもたちに本を贈る会」（代表・鈴木勲全国SLA会長）を発足させ、さらに大阪、兵庫、近畿のSLA、書店が協力して実施することに

これに併せて全国学校図書館協議会では、今年4月1日に全国約3,300の地方自治体に対して、「新5カ年計画」に基づく予算化の要望と平成7年度の予算化の現状についてアンケート調査を実施、目下各自治体から回収作業を行っている。なお、平成6年度と同じアンケート調査では、回答自治体の83%が年度当初予算に学校図書館図書費を「予算化した」と答えた。

今年度の交付税措置に基づいて学校図書館図書費を予算化した自治体では、教育委員会からの令達があり次第、早ければ今年春の予算執行から大幅な予算増となる。また、当初予算で予算化できなかった自治体に対しては、補正予算での計上、あるいは来年度において予算化するよう一層強力な働きかけが必要である。

なったもの。

今回の運動は「今回の兵庫県南部地震は、多くの尊い人命と人びとの平和な生活を一瞬のうちに奪い去りました。とりわけ、子どもたちは心に深い傷を受け、初めて登校した日、担任の先生の名前を忘れてしまったとの報告もあります。こういう状況のなかで兵庫県学校図書館協議会は、「読み聞かせ」を奨める活動に取り組んでいます。……子どもの本や読書にかかわる者として私たちは、こうした教

育現場の活動に深い敬意をはらうとともに、それぞれの団体がそれぞれの立場から力を出し合い、こうした活動を少しでも支援することできたらと考え、被災地の子どもたちに本を贈ることを決めました。」という主旨で行わ

れるもので、4月下旬に、児童図書出版社71社が提供する約4万冊の児童図書を仕分けして約100校の学校・幼稚園に贈る。この運動に共鳴した児童文学作家の松谷みよ子さんが被災地の子どもに励ましのメッセージを寄せた。

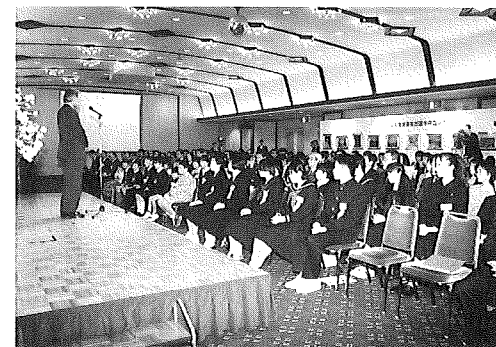
晴れやかに読書感想画コンクール表彰式 年々応募校数、応募作品数とも増加の傾向

'94年度読書感想画中央コンクール（全国学校図書館協議会・実施都府県学校図書館協議会・毎日新聞社主催、凸版印刷協賛、大和証券特別協力）の表彰式がさる2月24日、東京神田の如水会館で行われた。表彰式会場には、受賞者、学校代表、保護者をはじめ、中央審査委員、感想画対象図書の作家、著者、画家、出版社、出版取次会社、主催者等約300名が出席して受賞者を祝福した。

今回のコンクールでは応募校数が8,475校、応募作品数が526,743点となり、いずれも前回を上回って読書感想画が現場に一層普及、定着化してきたことを裏付けた。

表彰式は、全国SLA鈴木勲会長と毎日新聞小池唯夫社長が主催者のあいさつを行った後、太田恵美子中央審査委員長が審査報告（本誌

前号に掲載）、続いて最優秀賞を受賞した野田健人君（兵庫県尼崎市立園田小学校1年）はじめ27名の入賞者に賞状・記念品、在籍学校に学校賞（凸版印刷株式会社賞）が贈られた。



受賞者を代表して野田君が「これからも本を読んでたくさん絵をかきたい」と喜びを語り、（野田君の作品は本号表紙に使用しているもので、目次に作画の感想を掲載しました。）同じく最優秀賞の愛知県知多市立旭北小学校5年・齋藤映子さんが作画感想を朗読した。朗読の後、齋藤さんが読んだ本『ひまな岬の菜の花荘』の作者堀内純子さんが著者を代表して受賞を祝った。最後に全国SLA笠原良郎事務局長が閉式のことばを述べて表彰式を終了。その後、受賞者を囲んで楽しい記念パーティを行った。



悪化を反映してか全体として伸び悩みの様子がうかがえる。

なお、平成7年度の「学校図書館図書整備新5カ年計画」に基づく国の財政措置である地方交付税は、総額約100億円で、これは前

年度より10億円アップ、1学級当たり換算すると、小学校で約1.3万円、中学校で約3.2万円となる。各自治体での予算獲得運動が今後とも必要である。

た児童図書は、「被災地の子どもたちに本を贈る会」の呼びかけに応じた児童図書出版社73社から寄贈を受けたもので、当初の目標を大幅に上回る43,864冊となった。仕分けされた本は、子どもたちに人気のあるものや、値段が高くてなかなか購入しにくいものが数多く集められており、作業に当たったボランティアの中から「これで子どもたちのリクエストに応えられる」との声も聞かれた。

大きな被害を与えた阪神大震災から100日以上が過ぎたが、子どもたちの心に残った傷はいまだに深い。被害を受けた学校がもとどおりになるのか、よそへ引っ越した友だちのことなど、子どもたちの心のケアはまだ必要だ。1日も早く、子どもたちが笑顔を取り戻せるよう「読み聞かせ」運動が広がってほしいと願う。

被災地の子どもに本を！

「被災地の子どもたちに本を贈る会」(全国SLAなど5団体で構成、代表・鈴木勲全国SLA会長)では、4月21・22・23日の3日間、近畿地区SLAや書店組合などの協力を得て、阪神大震災の被災地の学校に贈る児童図書の仕分け・梱包作業を行った。

作業に当たったのは、全国SLA、近畿地区SLA、出版社、取次会社、書店組合、大阪国際児童文学館などからのボランティアで、3日間で延べ136名が土・日の休日を返上して4万冊を超える児童図書をすべてダンボールに箱詰めし、作業を終了した。

梱包された児童図書は、大阪・兵庫の書店組合を通じて被災地で特に図書を必要とする100の施設(幼稚園2園、小学校67校、中学校31校)に贈られる。贈り先の選定に

当たったのは兵庫県SLA(田中勝事務局長)で、学校図書館被災状況調査に基づいて選定された。各校へは、今回の活動に共鳴した児童文学作家の松谷みよ子さんの「ちいさいおともだちへ」と題する励ましのメッセージが添えられ、4月25日に配送された。

「被災地の子どもたちに本を贈る」この活動は、阪神大震災によって楽しい学校生活を奪われ、心に大きなショックを受けた子どもたちの心の傷を癒すために兵庫県SLAが提唱した「読み聞かせ」運動を側面から支援するために行われているもの。

この日集められ



本の仕分け梱包作業をするボランティア

被爆50年

一九四五年八月六日広島市街に原爆投下。建物疎開に出かけたまま、しげるは二度と帰ってこなかった。たくさんのお骨の中からおかあさんがみつけたしげるの遺体。そのかたわらにはあの日のまま、まつ黒に炭化した弁当が……。原爆によって息子を失った母親の深い悲しみと平和への願いを事実に、もとに描く感動の大型絵本！

新日本出版社

〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-25-6 ☎03(3423)8402(営)



児玉辰春・文
長澤靖・絵

絵本
まつ黒な
おべんとう

原爆資料館にある
弁当箱に秘められた
悲しいお話

A4判上製
定価1500円+310

